



2016 Eye's  
新潟ここだけ物語

Take Free  
ご自由にお持ちください

がんばろう ● ニッポン!

田んぼの脇を、小川がそよそよと流れ。ごくありふれた田園風景だが、ここには一滴でも多くの水をもどめた先人たちの想いが記憶されている。  
全國的にも水資源に恵まれている新潟県。その8割にあたる水資源は田んぼに行きわたり、日本一の生産量を誇る米王国を支えている。(妙高市の山手を流れる上江用水幹線)

## よろずよ(萬代)への架け橋

[新潟市中央区] 文 / 本望典子

にいがた  
めぐり  
vol.3



水面に映る灯りがゆらゆらと揺れ、静かにときを刻む。船舶がゆっくりと通りすぎる。清々しい川風が頬を撫でる。改めて「美しい街だ」と感じることができるのは、やはり萬代橋の秀逸なフォルムによるところが大きいだろう。調べてみると現在の萬代橋は三代目で、昭和4年に完成したとのこと。「よろずよばし」と呼ばれていた初代の萬代橋は、明治19年から。代々姿を変えながら、新潟市の歴史を見守り、水辺の風景を美しく彩ってきた橋は国の重要文化財に指定された。このあふれる重厚感が存在価値を裏づけている。

学生時代、友達と萬代橋付近で暗くなるまで話し込んでいたことがある。この頃はまだ、やすらぎ提もなく、数少ないベンチがあっただけの川岸だった。お金はなく、時間にゆとりがあったあの頃。学生時代の私は、何を考え、何に笑っていたのだろう。うっかり物思いに耽ってしまうのも、橋と川がもたらす風情のせいかもしれない。

ライトアップに目を向けると、照明灯や橋側灯(きょうそくとう)のデザインにも趣があることが分かる。石づくりの橋の表情と相まって、いっそうノスタルジックな雰囲気を醸し出す。今年の夏は、例年以上に信濃川周辺が賑わっていたようだが、現代感覚とレトロな街並みが織りなす一体感もまた興味深い。

この印象的な景観を近隣の複合ビルから眺める機会があった。

高層のガラス張り空間に広がる新潟市中心部の眺望は、目の前にサーブされるお料理をより一層引き立てくれる。ふと、お膳の柄に気づく。なんと萬代橋モチーフだ。さらに箸置きも萬代橋型。粋な演出に膝を打ったと同時に、人々の地域への想い、そして新潟市のシンボル・萬代橋への誇りを垣間見た気がした。



萬代橋

住所 / 新潟市中央区万代(一般国道7号)

概要 / 鉄筋コンクリート造6連アーチ橋

平成16年7月6日(建第二四四七号)

重要文化財指定

アーチの美しさと石づくりの重々しさが調和する橋。昭和39年に起きた新潟地震でも持ちこたえ、市民の避難や救助、災害復旧に大きな役割を果たした。美しさと風格、強さを兼備した橋は、今も新潟市の水辺のシンボルとして親しまれている。



ふうど 2016秋号 vol.34

企画編集 ふうど編集室

発行 人 高橋 佑

取材編集 浅川綾子

写 真 佐々木聰

原 著 波部佳則

デ ザイン 斎藤道司

題 字 小林 翠

編集後記

原稿を書き終えてから、偶然にも歴史の糸が繋がる興奮を味わった。上江用水の第三期の掘りつぎ工事が完成した1779年の数年後、全国規模の天明の大飢饉が始まるが上越地方は比較的軽微な被害で済む。その様子を見習い、また上江用水建設の際に見せた農民の実直さを知り尽くしている川浦役所の代官・竹垣三右衛門が、後年、下野国や常陸国に転任した時、そこで見たのは農村の疲弊と人口減少だった。竹垣は、その対策として勤勉な頸城地方の農民を移住させ、農村の復興を図ろうとした。その政策は見事に成功し、約30年間で1700人余りの越後農民が下野・常陸・下総方面に移住した。この事蹟を歴史的表現で「越後の入百姓(いりひゃくじょ)」という。川浦役所は庄屋・下島富三郎を代表にして勘定方に訴えてた32ヶ村の大半を治める、幕府直轄の役所であり、上越市三和区にあった。水のゆくえを追う旅は、県境を越えて、どんどん拡張していきそうである。(波川)

発行所

ふうど 編集室 株式会社タカヨシ

■本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800  
■東京支社 / 〒110-0005 東京都台東区上野1丁目13-3 MYビル2F TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884  
■仙台営業所 / 〒981-0952 宮城県仙台市青葉区中山5丁目7-32 TEL (022) 303-1225 FAX (022) 303-6830  
■名古屋営業所 / 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社1丁目79 第六名昭ビル6A TEL (052) 753-8080 FAX (052) 753-8081  
■オフィシャルサイト / <http://www.takayoshi.co.jp> ■商品サイト / <http://www.tk-print.jp>

「ふうど」はここに置いてあります

【新潟市】<中央区>ANAクラウンプラザホテル新潟、駅前オフィスNII GATA、NSG学びステーション、NST、NPO法人 Made in 越後、上古町商店街、旧小澤家住宅、県立自然科学館、砂丘館、佐藤商会、佐渡汽船ターミナル、朱鷺メッセ、新潟NPO協会、新潟絵屋、新潟 加島屋本店、新潟県政記念館、新潟県庁広報展示室、新潟県立図書館、新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス、新潟市市民活動支援センター、新潟市生涯学習センター、新潟市食育・花育センター、新潟市中央図書館、新潟商工会議所、新潟市歴史博物館、新潟ユニゾンプラザ、ピアBandai、ホテルリバティア軒、りゅーとあ新潟市民芸術文化会館  
<東区>桑名病院、パティスリーカフェオーラン、<西区>新潟ふるさと村、新潟大学附属図書館、佐潟莊、<南区>新潟市農業活性化研究センター、<北区>新潟せんべい王国、ビューフ島潟、新潟空港  
<江南区>新潟市立亀田図書館、<西蒲区>カーブドチ、ドメース・ショオ、<秋葉区>カフェギャラリーまぼうし、川内自動車、農圃地区公民館  
【新潟市】加治川地区公民館、柴雲寺地区公民館、新発田市生涯学習センター、新発田市民文化会館、新發田市立図書館、農圃地区公民館  
【長岡市】新潟県立歴史博物館、長岡市立中央図書館、長岡西病院、【燕市】分水ビジターサービスセンター  
【出雲崎町】越後出雲崎天領の里、【湯沢町】雪国觀光舎 越後湯沢温泉、【南魚沼市】柳原  
【佐渡市】SADO伝統文化と環境福祉の専門学校、ホテル大佐渡  
【東京都】<渋谷区>表参道・新潟ネスバス、<中央区>プリッジにいがた、<千代田区>新潟市東京事務所

エコブレス  
バインダー

RICE INK  
この印刷物は環境にやさしい  
製本方法を採用し、  
リサイクルや怪我の危険へ  
配慮しています。



# 山塊を刻んだ執念



「上江用水」  
妙高市～上越市

つくる 農民が拓いた未来

## 一滴の水のために

水は、農民の命である。米づくりのための豊富な水を得るために、いつの時代も農民たちは頭を悩ました。時には命を賭し周辺の村々と争いをした。上越地区にある上江用水から、そんな農民たちの悲願と執念が痛いほど伝わってくる。

この上江用水は幹線全長二十六キロメートルの長い水路で、安土桃山時代から掘削が始まり、約百三十年の間、三期に分けて延長された。三期目の掘りつきを決意し念願を果たした地元農民リーダーのひとり、下鳥富太郎が幕府に提出した訴状文がある。ちなみに水路を延長していくことを、この地方では「掘りつき」と言い習わしている。



①



②



④

⑤

⑥

う川まで引き取れば、用水の足し水になります。夏の間の一～三回だけ払い捨ての余分な水だけ引き取らせてくれるよう、近隣の村々にお願いしたのですが、聞き入れてもらえないませんでした。どうかご慈悲をもって反対する村々の言い分をご吟味ください」。水路を通す敷地と工事の労役は百姓負担でいいとまで言つて訴えていた。この訴状を持って下鳥ら一行は、巨漢の力士を従えて江戸に出向いた。

用水を確保するために幕府の勘定方まで巻込む大きな争いに発展したが、この願いは聞き入れられ、上江用水は延長され、現在に至っている。

## 江戸期の技術力

下鳥富太郎が幕府に提出した訴状文がある。ちなみに水路を延長していくことを、この地方では「掘りつき」と言い習わしている。

内容は「三年続きの干ばつで、いつも用水をしている川が干上がり、百姓は昼夜精を出しましたが、流末の村々のため方法がなく、飲み水まで遠方からもらう状態です。にもかかわらず近隣の村々では、そんな時でも余った水を払い捨てています。この余分な水だけを掘りつき、いつも使

滴の水のために、人間はそこまでで生きるのだ。

上江用水の大半は、丘陵の麓を曲折しながら流れている。すべて人の手による掘削である。片側は山がせり出し、片側の勾配した斜面に水田が高低差をつけて下り、はるか遠くに街並が見える。水路は溝々と水を抱え、その水はビュンビュンと速度をあげて下っていく。先人たちが切望した光景が目の前いっぱいに広がる。今までこそ、長い歳月のうちに自然と人工物が溶けこみ、自然が造型しだろう。そして初めて通水できた時の先人たちの喜ぶ顔が浮かぶ。

当初の上江用水は、関川の上流部で堰き止め、その水を水路に流していた。が、後の大正時代、さらに上流に水力発電所が十二ヵ所建設され、今は発電後に放出される水と、新たに農業用水を貯水する目的で造られた笹ヶ峰ダムの水を引き込み、中江用水とともに高田平野の農業用水の双璧となる大用水である。藩主導で短期間で開発された中江用水と異なり、農民主導の上江用水は資金も労力も血のにじむような努力で建設された。現地で、その執念の凄まじさに目を見張った。一

- ①上江用水のスタート地点にある川上縁穴隧道（トンネル）。長さは220m。江戸時代に農民たちの計画と資金で掘削した。【妙高市川上】  
 ②かつて関川を引込んでいた時代に大活躍した施設（余水吐（よすいばき））。取水量を調節するためのもので、古代遺跡のように威風を放つ。【妙高市川上 上江用水記念公園】  
 ③山のなかを流れる用水路。関田山系の山裾を、ほぼ等高線に沿って江戸期に掘削された。【妙高市】  
 ④鳥坂水力発電所の放水路。ここで放された水が上江用水と中江用水の水源になる。【妙高市川上】  
 ⑤用水が分流する地点に設置された堰。【妙高市上新保】  
 ⑥上江用水路の旧取入口のモニュメント。【妙高市川上 上江用水記念公園】



# 蛇口をしめない里

伝える  
しあわせを運ぶ水

## 名水が蛇口から出る

県北に、生まれたての水が集落内を巡る里がある。村上市大毎。山のあちこちから清冷な水が湧き、良質米のとれる地質であることから、標高百三十メートルから二百メートルの山間に百四十世帯が暮らしている。集落に足を踏み入れると、さまざまな水の音が聴こえてきて心が洗われ、水のもつ治癒力を実感する。この里の家々に供給されている吉祥清水が、平成二十年、「平成の名水百選」に選ばれた。水源地だけでなく各家庭の蛇口から名水が出るのは珍しい。しかし、その引き込み施設を布設するためには、住民たちの並々ならぬ熱意と苦労があった。

豊かな村づくり協議会会長の佐藤勝敏さんは「昔は集落のなかを流れれる大毎川の水を生活用水として使っていたのですが、川の水が原因で病気になる人が出ててしまい、その開策として吉祥岳の麓の湧水に着目しました。水源まで約一キロメー

年を通じ豊富な水が湧き、大勢の住民が安全な水を使うには申し分なかつたのです。そこで住民有志三十八人で大毎水道組合をつくり、事業に着手しました。いまから九十二年前の大正十三年のことです。ただ、いまのようないくつか土木技術がない時代。「そんな遠くから水がひける訳ない」と、その突飛な計画を笑われたようですが、住民の意志は固く、県からの補助金がでる前に銀行から工事費を借り入れてまで工事にとりかかりました。当時のお金で千八百一円。資材は別として、労働力は組合員が提供。導入管には土管を。川と交差する場所に鉄管を川底に埋め、ついに山の麓から水を引き込むことに成功したのです。それは関東大震災があつた一年後の出来事でした。

あたりまえの贅沢

どのようにして水源から九十戸の家まで水を供給するのだろう。「水源から導入管を伝ってきた水を大きな水槽で受け止め、そこから要所に設置した小さな水槽へ流します。水槽は九基あり、一基の水を十世帯で使用するようになつています。集落内は高低差があるので水は自然に流れていきますね。この水槽ごとに班を構成し、それぞれに役員をおき水槽の管理や管理費の集金などを担当してもらっています。

また住民は、水を神が宿る神聖なものと考え、その班の水槽に水神様の掛け軸を祀り大切にしてきました。毎年十二月十四日には、水神様を当屋に招き入れ、一年の無事を感謝する気持ちをこめたご馳走をこしらえ神様にお供えをします。今は水槽に掛け軸を掛けていませんが、班の人が寄り合い水神様のお祭りだけは続けています」。

驚くことに組合員の家には、水道の蛇口がふたつある。村上市が布設した簡易水道と組合の蛇口。湧水の水質は定期的に検査しているので間違はないが、手の下で清水が湧いてくる。卓抜した技術力と組織力がうかがえる。

布設されている。そして、この名水の特徴は、水温は年間を通じほぼ同じ。夏は十度で冬は外気温より高い八度。そのため消雪用にも名水が威力を發揮する。坂の多い山里にもかかわらず、集落内では雪の心配は少ないという。さらに組合員の水道料金は、管理費として月々二百円。もちろん使い放題。というより流しつぱなし。水槽に水が滞留し腐敗しないための対策で、一年中、全戸で水を流している。つまり蛇口をしめないのだ。「まだ簡易水道が布設されていない頃、夏休みに親戚の家に泊まりがけで遊びに行つた時でした。私は水道を使った後、いつもの習慣で蛇口をしめません。同じことを何回もするので、親戚の人に注意されました。この時、はじめて他の地域では水道の蛇口をしめることを知りました」と佐藤さん。家の前は、ホースから水が出しつぱな



インフォメーション

新潟県農林水産部農産園芸課

新潟市中央区新光町4-1  
TEL 025-280-5296(直通)

J.A.越後さんとう 北部地区営農センター

長岡市島崎431番地  
TEL 0258-74-3434

## 関川水系土地改良区

上越市大字長面14番地1  
TEL 025-522-5722

大毎 豊かな村づくり協議会

村上市大每280番地  
TEL 0354-75-3038

読者の声～前号を読んで～

謙虚な佐渡出身の旧友

まず驚いたことは佐渡のくだもの  
豊富なこと。佐渡は「金」だけでは、なか  
ったのですね。旧友に佐渡出身者  
がいるけれど、ついぞ彼らからそんな話  
を聞いたことはない。佐渡の自然が育  
んだ気候風土と島の住人の勤勉さ  
が、多くの産物を産んだのに旧友は  
言わない。謙虚なのがどうか知らない  
が、私なら多少誇張しても自慢したい  
ところである。

(千葉県佐倉市 70代男性)

## 里物生産者の職人魂を知る

佐渡の実家に帰省すると、旬の地物の果物を食べさせられる。体の細胞にしみわたるような甘味、酸味、本当に何よりの贅沢だなあと思う。生産者の方々の職人魂を知ることができ、さらに果物への愛と、いつも果物を用意してくれている両親への感謝が深まります。

(長岡市 40代女性)



長年、地区の活性化を牽引してきた大毎農家組合の元組合長、佐藤勝敏さん。地元に誇りをもち、集落の資源をもっと活かしたいと意欲的だ。



①山の途中から見下ろす風景。手入れの行き届いた棚田が広がっている。ここから、さらに山奥に佐藤さんの棚田やコスモ畑、やまぶどう畑がある。  
②大毎名水まつりのハイライト、大そうめん流し。竹製の200mもの長い桶を流れてくる速いそうめんを参加者が必死でくわう。手製の出し汁はおいしかった。  
③山坂にあらず大毎の集落は、びっくりおいひれた普通の山村でも、どこをも見てみたるにかく風景があり幸福感に包まれる。

先人たちが遺した水道は、当初、大毎水道と呼ばれ長い間、地域を支えてきた。後年、幸せをもたらす水として「吉祥清水」という名に改称され大毎地区のブランド確立と誘客を牽引してきた。集落の中心部に誰でも取水できる場所があり、年間二万五千人が水汲みに訪れる。また名水百選に選ばれたことを記念して始まった「大毎名水まつり」は、毎年七月の第二日曜日に開かれ、二百メートルにもおよぶ大そうめん流しが人気的になっている。今年は開始間際までの雨にもかかわらず七百人の観光客が詰めかけ、老若男女入りまじり夢中になつて流れてくるそろめんをとらえ、舌鼓をうつていた。

その他、この名水と地元で酒米「たかね錦」でつくられる地酒「清酒日本国」がある。大毎を含む旧山北町だけしか売られていない。この酒を名水の流れるタンクに浸し、長期

長年、地区の活性化を牽引してきた大毎農家組合の元組合長、佐藤勝敏さん。地元に誇りをもち、集落の資源をもっと活かしたいと意欲的だった。

になるそうで、大毎名水まつりで毎年ふるまわれる。ほかにも佐藤さんの頭のなかには、名水を活用したマインディアがこんこんと湧いていた。最後に佐藤さんの棚田を見せてもらいう。用水はすぐ近くに湧く、生まれたての山の水。「宣伝販売などで、米を育てている水を飲めると説明すると皆さん驚きますね」。樋を流れる水に触れると、びっくりするくらい冷たかった。

上・中・下越、それぞれに一滴の水をもとめた先人たちの飽くなき執念があつた。それは県民の粘り強さを証明する水物語でも、あつた。